

## C-2指導の実際

5限 公開授業 指導の実際

5年エーミール！コース

### つかむ場面

前時終末に、台形の求積問題を渡した。方眼上の台形にし、上底・下底・高さがわかるようにしてあった。前時終盤には、「あと、公式がわからないのは、台形とひし形や！」という声がよく聞かれていて、児童の関心・意欲は十分だった。（自主的に考えてきた児童が大半だった。）

考えの見通しは、〈考えを進める手がかり〉をもとに、既習の活用を意識できていた。また、図や言葉をつかって考えることも数値が与えられないことで理解できていた。

### 考える場面

自力解決では、三角形分割に偏っていた。また、三角形分割はしても、対角線を底辺として高さをそれぞれ測定しなければいけない方法が多く、高さを共通にとる考えは少なかった。

ひとつの考えが出たら、他の方法がないか考えるよう勧めた。長方形への変形はあったが、平行四辺形への等積変形は、なかった。多様に考えることがねらいではないので、3通り考えている子へもあえてアドバイスはしなかった。

### 学び合う場面

ペアによる伝え合いで、長方形への等積変形は消え、倍積変形と三角形分割が残ったようだった。また、三角形と長方形への分割も、計算の煩雑さから消えていった。計画通り、三角形分割と倍積変形の考えを黒板に取りあげた。「対角線」「分割」「2倍」「変形」などの算数的な表現がよく説明に使われた。代打説明・リレー発表・復唱で児童は自らの出番を見つけていた。

### まとめる場面

提示の台形の頂点をA、B、C、Dとつけてあったことで、二つの考えの言葉の式が〈 $AD + BC \times \dots$ 〉というように表現できた。言葉の式では三角形分割と倍積変形の式の優劣はつけられない様子だったので、構成要素の辺の数値を与え計算させたところ、計算の簡単さから倍積変形に軍配が上がり「上底」「下底」「高さ」の用語を教えたところ、すんなり公式が決まった。その後、黒板に取りあげなかった方法（等積変形・三角形と長方形への分割）についても児童のノートで紹介した。適用問題・ゆさぶり問題共に十分にできた。時間があつたので、予定していなかった感想発表を求めたところ、考え方のことで用語を使った感想が続いたのには感激した。

## 板書



よかったなあと思うのは、考えを二つに絞り学び合いを焦点化したこと。公式導入がスムーズにいき、結果、終末の適用問題への余裕があった。今度この授業をするときは、考えの種類を3つ（等積変形）取りあげ、より考えの多様性を楽しみながら公式へ導きたい。